

## 雪降る杭州

明けましておめでとうございます。中国での生活も半分以上が過ぎ、残り少なくなってきました。出来る限り色々なことを体験して中国から帰りたいと改めて思ったそんな年始でした。残り少ないレポートではありますが最後までお付き合い頂けたら幸いです。

さて、浙江省杭州では 12 月から続く寒さはますます厳しくなり、暖房の効かない宿舎の中では厚着をして過ごす日々です。日本では大寒波が首都圏を襲い、雪が積もるほど降ったことを知りました。ここ浙江省杭州でも積もるほどに長く雪が降りました。杭州では晴れる日が少ないため積もった雪がなかなか溶けず、路面が雪と水により滑りやすい路面状態になっていて少し危ないです。

学校の中では樹木や建物の屋根などが雪化粧をしていました。多くの学生が外に出て積もった雪で遊んでいる様子が見受けられ、雪をとっても楽しんでいるようでした。外国人留学生の多くも物珍しそうに校区内の雪景色をカメラに収めていました。私は西湖の雪景色が見たいと思い、校区から歩いて西湖に向かいました。道中路上の雪をかき分けている人が多々おり、雪に悪戦苦闘している人がいました。

西湖に到着すると国慶節中なのかと思うほど人で溢れていました。地元の人でも西湖の雪景色は珍しいようで賑わっていました。西湖の雪景色はとても綺麗で足を伸ばした価値があったと思う景色でした。中国の北方のあまり雪が降らない地域では雪が降ると豊作が期待できるとしてお祝いをするそうです。ここ杭州での人々の盛況ぶりはまさにそんな様子だったのではないのかと思いました。



『校区内の雪景色』



『西湖の雪景色』



『西湖の周りの様子』

## 厦門(アモイ)旅行

福建省の沿岸部に位置する都市アモイは年間を通して非常に暖かく、この時期でも20度を超えるほどです。出発した杭州では肩を震わせるほどの寒さであったのにアモイに着くと長袖一枚で過ごせるほどの温かい気候でした。国内それも陸地からの移動でここまで気候が違うことに、中国という国の大きさを改めて体感しました。

アモイではまず中国で一番美しい大学として知られる厦門大学に見学に行きました。大学内の建物の見学というのにたくさんの観光客で溢れていました。厦門大学はどこか違う南国の国の大学に来たのではないかと錯覚するほど中国感のない大学でした。大学内の建物はとても綺麗で一番美しい大学と謳われるのも頷ける大学でした。しかし、有名なのは美しい建物だけではなく大学内にあるトンネルもまた有名なのです。毎年厦門大学の学生がトンネル内の壁に絵を描くことでも有名でこの場所も観光の名所となっていました。それぞれの学生の思い思いの絵が描かれていました。日本のアニメの作品が描かれている壁もあり、ここでもまた日本のアニメの人気の高さを感じました。



厦門大学(正門)



校区内の景色



トンネル内の絵(1)



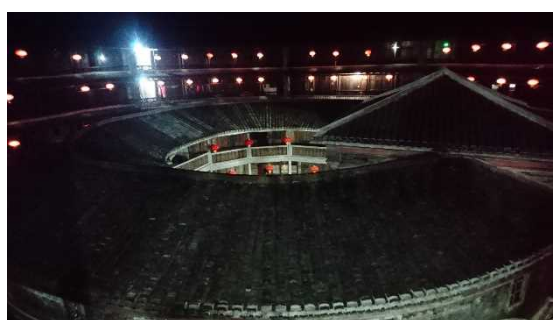
トンネル内の絵(2)

次に少しアモイから離れ永定県に土楼を観に行きました。土楼は世界遺産指定されている建物で未だ人が住んでいる場所でもあります。土楼は主に正方形と円形の二種類で大きさはさまざま大きいものもあれば小さいものもあります。私達が行った時期は閑散期で観光客はあまりおらず、込み合うことなく色々な土楼を観ることが出来ました。土楼の中に泊まれるということだったので、少し小さめの土楼に1泊宿を取り土楼の中の生活を少しでも体験してみました。外観こそ土楼そのものですが内部はリノベーションが施されており快適に過ごすことが出来ました。旅行客用にリノベーションされていることだとは思いましたが、土楼内での生活に少しでも触れられることが出来たのはとても貴重な経験でした。

日を跨いで近場で回り切れなかった土楼、“土楼王”と呼ばれている土楼を見に行きました。この土楼は現存する土楼の中で一番大きな土楼とされています。大きな土楼ではこの付近の茶葉からできたお茶の試飲ができるようで、土楼王ともう一つ大きい土楼に行きましたがどちらでも勧められました。お茶を出してくれた店員さんと拙い中国語を使って話していると「中国語できてすごいね。」と言ってもらえて、お世辞かもしれませんがうれしくなる場面もあり、これも海外での旅行の醍醐味だなと思いました。土楼王では土楼に住む人の中で最年長のおじいさんともお話しする機会がありました。後にネットで調べ気づいたのですが有名な人だったので驚きました。



『土楼王』



『夜の土楼内部』



『泊まった土楼の部屋の内装』



『高台から見た土楼』

その後アモイに戻りナイトクルーズができるということだったので、船に乗り久々に海辺でのクルージングを楽しみました。甲板では海の上ということもあり少し肌寒かったのですがそれでもアウター1枚ほどで大丈夫でした。中国のライトアップは色が変わるだけでなく、ライトで色々な物の絵を映し出す、なかなか目を引くような演出がされていました。



『ライトアップされたコロンス島』

アモイに来たら絶対にここには行っておけると言われるほど有名な島“コロンス島”。この島の街並みも少し中国の街並みとは違った雰囲気があります。街並みは赤を基調としてとてもきれいでした。日光岩と呼ばれる場所でコロンス島を一望できると聞き、登ってみることにしました。なかなか傾斜がある道のりと温かったこともあり少し汗をかきながらの登頂になりました。頂上からの景色はとても素晴らしく、気持ちのよい風を浴びながらの一望でした。晴れたことが助けになりとてもすばらしい景色を堪能することが出来ました。旅の締めとして良い景色を観ることができ、満足度の高い旅となりました。



『ライトアップされたアモイ沿岸部』



『高台から見たコロンス島(1)』



『高台から見たコロンス島(2)』

いよいよ残り 1 か月となり帰国も目の前に見えてきました。学期が終わったこともありクラスメイト達は続々と帰国、中国の友達たちも帰省。この研修の終わりが近いのだと実感します。残り時間短くはありますが、最後まで中国という国についてもっと深く知っていければと思う次第です。

浙江省友好交流員  
加治屋 樹